

令和5年6月23日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学校名	管理機関名	設置者の別
東京都北区立王子桜中学校	東京都北区教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の公表URL
東京都北区立王子桜中学校	https://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu-02/ojisakura/mokuhyo.html

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表URL	学校関係者評価結果の公表URL
東京都北区立王子桜中学校	https://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate/shogakko/gakkojoho/kuritsu-02/ojisakura/mokuhyo.html	

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

とくになし

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校を中心としたサブファミリーでは、「自分の問いをもち、主体的に学ぶ子どもの育成」（一課題を追求する授業デザイナー）を研究主題としている。海育科の調べ学習（研究活動の一つと考えてる）においても「問い」の連続性を大切にしている。見方・考え方を働かせ「なぜ、どうして、」という疑問を大切にし、一つの「問い」が解決すると同時に新たな疑問が生じる。この「問い」のスパイラル性が生徒の主体的な学習へとつながっている。海育科の学習は、生徒自らの「問い」を大切にする本校の教育活動の一端を担っている。

一方、海洋科に配当できる授業時数には限りがある。短い单元の中で「問い」を発展させていくことに難しさがある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

中学校の教育課程は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術家庭科及び外国語の各教科と特別の教科道徳、総合的な学習の時間並びに特別活動によって編成している。教育課程特例校（海洋教育、海洋科）である本校では、1・2学年の理科、社会科でそれぞれ6時間、1学年の総合的な学習において5時間を配当している。また、1学年の宿泊行事である岩井臨海学園の中でも海洋教育を取り入れている。

海洋科の学習は、海をより身近なものとして捉え学習を進めていく必要性を強く感じている。1学年は、夏季休業中の岩井臨海学園で体験的な学習を通してより深い学習へと導くことができる。しかし、岩井臨海学園不参加の生徒や2学年の生徒に対してどう補うかが課題である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・ 3（1）については、週1回行われるNIE活動において、積極的に海に関する題材を準備し、海に関する諸問題について自分の考えをまとめる時間とリンクさせ補っていく。
- ・ 3（2）については単元計画のさらなる工夫を図る。2学年（岩井臨海学園不参加の1年生も同様）においては、海洋教育についての体験的な学習の実施が難しいため、画像やインターネット動画の活用や時事問題を取り上げ、海に親しみをもち、海との関わりについて主体的に考えることができるようにしていく。
- ・ 海洋教育全体について、より高度な専門性が必要である分野と感じている。引き続き区教育委員会の事業であるお茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンターとの連携を図りながら取組の充実を図る。